

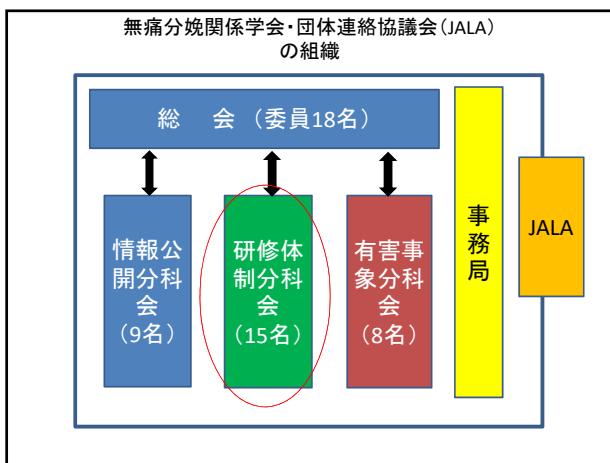
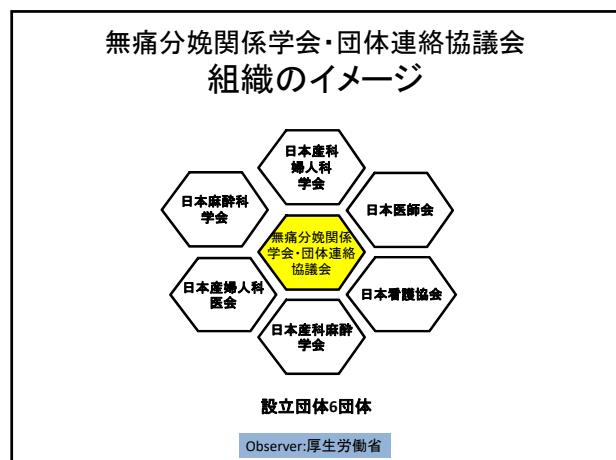
無痛分娩関係学会・団体連絡協議会
市民公開講座
—無痛分娩の安全性向上のために—

2019年3月24日

JALA活動内容紹介
研修体制分科会

JALA研修体制分科会
近江楳子
(東京慈恵会医科大学麻酔科)

1



無痛分娩関係学会・団体連絡協議会
設立の目的

「特別研究班の『提言』を実現し、より安全な
無痛分娩提供体制を作ること」

提言に沿って研修体制を作る

「無痛分娩の安全な提供体制の構築に関する提言」

**III. 無痛分娩に係る医療スタッフの
研修体制の整備に関する提言**

III. 無痛分娩に係る医療スタッフの研修体制の整備に関する提言

無痛分娩に係る学会及び団体は、無痛分娩の安全な診療を目的として、無痛分娩に係る医療スタッフが産科麻酔に関する知識や技術を維持し、最新の知識を更新するために**必要な講習会を定期的に開催**すること。

無痛分娩に係る学会及び団体は、無痛分娩を含む産科麻酔を担う人材を育成するために、「**産科麻酔研修プログラム(仮称)**」を策定し、研修を実施すること。

関係学会は、無痛分娩を含む産科麻酔の**認定医制度等の要否について引き続き検討**すること。

講習会

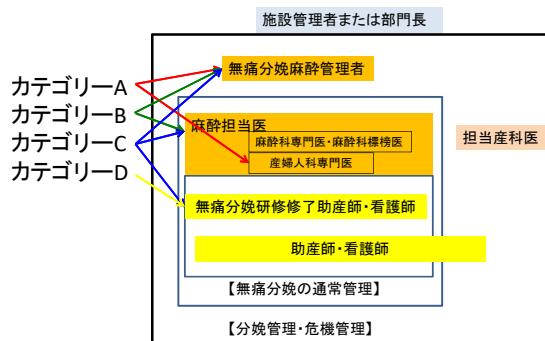
現在急務である無痛分娩診療の安全向上を目的として、各医療スタッフにより無痛分娩が安全に実施されるために定期的に開催されるもので、講習内容によりA,B,C,Dのカテゴリーに分類されます。

講習会はJALAが運営するウェブサイトの「情報公開に積極的に取り組んでいる無痛分娩施設」リストに載っている施設の医療スタッフの受講を優先いたします。

無痛分娩の安全な診療のための講習会

カテゴリー	A	B	C	D
講習会の内容	安全な産科麻酔の実施と安全管理に関する最新の知識の修得及び技術の向上のための講習会	産科麻酔に関連した病態への対応のための講習会	救急蘇生コース	安全な産科麻酔実施のための最新の知識を修得し、ケアの向上をはかるための講習会
無痛分娩麻酔管理者	●	●	○	
麻酔担当医		●	●	
産婦人科専門医	●	●	●	
無痛分娩指導助産師・看護師			○	●

無痛分娩を提供するための必要な診療体制のイメージ



カテゴリーA

安全な産科麻酔の実施と安全管理に関する最新の知識の修得及び技術の向上のための講習会

対象：無痛分娩麻酔管理者または
麻醉担当医である産婦人科専門医

カテゴリーA

(座学)

第1部 無痛分娩の安全体制の構築に関する提言

原則としてカテゴリーAでは常に使う

第2部 麻酔科的講義

「硬膜外麻酔の神経学的合併症」

今後は別の講義も作成する

カテゴリーB

産科麻酔に関連した病態への対応のための講習会

対象：無痛分娩麻酔管理者・麻酔担当医

カテゴリーB

(シミュレーション講習)

対象 産婦人科専門医

J-CIMELSの「硬膜外鎮痛急変対応コース」

内容は主に高位(全脊麻)と局所麻酔中毒
(座学)

対象 麻酔科専門医、麻酔科標榜医

日本麻酔科学会学術集会等にて行う

母体急変の内容を含める

カテゴリーC

救急蘇生コース

対象: 無痛分娩麻酔管理者

麻酔担当医

助産師・看護師

カテゴリーC

(シミュレーション講習)

J-MELSベーシックコース

麻酔科専門医には受講を推奨する

全身管理医対象のコースを構築中

PC3、ACLS、ICLSもカテゴリーCとするが、母体急変を学べる講習会の受講を推奨する。

カテゴリーD

安全な産科麻酔実施のための最新の知識を修得し、ケアの向上をはかるための講習会

対象: 助産師・看護師

カテゴリーD

(座学)

無痛分娩時の合併症を早期に発見するための生体モニター必要性や麻酔記録の記入方法など基本的な座学を行う。

講習開催は看護師や助産師向けの学会や研究会

e-ラーニングの開催、時間数、詳細な内容などについては今後検討してゆく。

モデル講習会

第1回モデル講習会開催(カテゴリーA,B,C)

平成31年1月6日(日)、

場所 東京慈恵会医科大学

シミュレーションセンター

第2回モデル講習会開催(カテゴリーA,B,C)

平成31年3月2、3日(日)、

場所 大阪大学先端医療

イノベーションセンター

研修プログラム

無痛分娩に関わる学会及び団体は、無痛分娩を含む産科麻酔を担う人材を育成するために、「産科麻酔研修プログラム(仮称)」を策定し、研修を実施すること。

研修プログラム

① 関係学会及び団体は、今後の無痛分娩を担う、産婦人科医・麻酔科医・助産師・看護師を対象とした「**産科麻酔研修プログラム(仮称)**」を策定するための組織を設置し、当該組織に参画すること。

② 当該組織は、無痛分娩を担う医療関係者全てに共通する研修プログラム及び医療関係者それぞれの専門性に対応した研修プログラムを策定すること。研修プログラムを策定するに当たっては、専門施設における実技研修等の内容について検討すること。さらに、策定された研修プログラムを踏まえ、研修体制を整備すること。

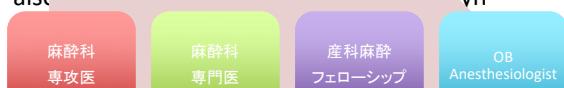
③ 関係学会は、無痛分娩を含む産科麻酔の認定医制度等の要否について引き続き検討すること。

研修プログラム

講習会は現在無痛分娩を行っている体制を整えるものに対し無痛分娩を含む産科麻酔を担う人材を育成するためのもので、「産科麻酔研修プログラム(仮称)」と称し現在策定中です。

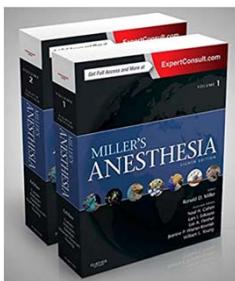
産科麻酔(米国)

Obstetric anesthesia or obstetric anesthesiology, also known as ob-gyn anesthesia or OB-anesthesia,

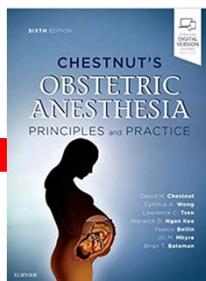


students must complete a four-year residency training at an approved anesthesiology program^[28] and pass certification exams to become a board-certified, general anesthesiologist.^[27] Obstetric anesthesiologists then complete an additional year of study (fellowship) to gain specialized experience.^[27]

産科麻酔(米国)



■ 麻酔科
専門医



産科麻酔研修プログラム:JALA(本邦)で検討未

日本麻醉科学会からの提言

声明：日本麻醉科学会から本学会員に対する提言
「日本麻醉科学会の考える望ましい無痛分娩のあり方」

無痛分娩の安全性向上のため、2018年4月20日付で厚生労働省から「無痛分娩の安全な提供体制の構築について」という通知が地方自治体および関係学会に向けて出されました。本学会員は「無痛分娩の安全な提供体制の構築について」の通知内容を遵守するとともに、さらなる無痛分娩の安全性の向上のために、以下のように尽力されることを望みます。

基本的的前提

- 無痛分娩は、健康である妊婦ならびに児のみならず合併症のある妊婦を対象とした麻酔診療行為であるため、安全性に充分配慮した責任体制で行なうことが求められます。すなわち、
 1. 麻酔科医は、産科医、看護師、助産師とのチーム医療として無痛分娩を実践できる体制において行なうことが望ましいと考えます。
 2. その上で無痛分娩の開始から分娩後に麻酔（鎮痛）の影響がなくなるまで、麻酔担当医も責任をもつ必要があります。

日本麻酔科学会からの提言

日本麻酔科学会の考える安全な無痛分娩のための要件

1. 無痛分娩実施施設に求められるもの

- 1) 無痛分娩実施中は、麻酔科医が常駐していること
- 2) 無痛分娩に関する知識と経験のある助産師または看護師が常駐していること
- 3) 妊婦のバイタルサイン、麻酔（鎮痛）状態が常時監視されている体制がとられていること
- 4) 無痛分娩に必要なモニターが常備されていること
- 5) 麻酔科医は、産科医、助産師または看護師などの医療スタッフと良好なコミュニケーションがとれていること
- 6) 緊急帝王切開術が可能な診療体制であること

2. 無痛分娩を行うための推奨事項

- 1) 本学会員が無痛分娩の麻酔（鎮痛）に関する無痛分娩麻酔管理者となる場合には、麻酔科専門医とすること、無痛分娩を担当する麻酔科医が麻酔科専門医ではない場合は、麻酔科専門医の指導監督のもとに無痛分娩を行うこと

日本麻酔科学会からの提言

3. 急変時の対応

- 1) 麻酔科医が直ちに対応可能な体制とすること
- 2) 緊急事態に対応できる薬剤と器材（除細動器、気道管理のための器材）ならびに日本麻酔科学会の「安全な麻酔のためのモニター指針」の定める機器が常に準備されていること
- 3) 急変時においても記録を適切に行うこと

以上

2018年6月1日

公益社団法人日本麻酔科学会 理事会

無痛分娩の需要は増加

JALAは安全のための講習会を開催と同時に
産科麻酔を担う人材育成の研修プログラムを構築

ご清聴ありがとうございました